

FU-MON

鳥取大学広報誌 www.tottori-u.ac.jp/fumon

風紋

48

2016年
- SPRING -

特集 1

学長特別対談

地域産業界の発展と 鳥取大学への期待

株式会社鳥取銀行
代表取締役頭取

鳥取大学長

宮崎 正彦 × 豊島 良太

特集 2

国際交流

世界への扉を開く Global Gatewayプログラム

【Student's VOICE】

世界にはばたく鳥大生 編

【社会貢献】

地域と連携したエキナセア研究

【話題の研究】

メタンハイドレート科学講座の開設

【学びを支える】

高校生から大学生への
スムーズな移行を支援します!

【新任教員紹介】

医学部

【大学の動き】

二次被ばく医療施設を使った
原子力防災訓練を実施 ほか



の喚起も起こってきています。ただ肌感覚でみるとまだ本格的な景気回復には至っていないという感じはします。ただし、製造業、非製造業とも好転してきているのも事実です。業績が回復している企業も多く、設備投資などの前向きな動きも出てきています。企業が設備投資するということは人を雇いたいということ、実際には雇用情勢は非常によくなっています。鳥取県内の有効求人倍率は平成27年9月が1.22倍。これは全国の1.24倍と比べてもほぼ変わりない数字です。特に製造業、建設業の雇用情勢は非常に良い。しかしながら、それと裏腹に人手不足感も強まってきている状況です。

豊島 人材確保は大学も共通の課題ですが、私が思うに鳥取県内にも素晴らしい企業はたくさんあると思います。それがまだ十分にアピールされていないのではないかと思うのですが、どうでしょうか。

宮崎 同感です。就職先を決める際に、多くの学生は就職情報誌で一部上場企業や鳥取県内を代表する企業を選択しています。でも実際には鳥取県内に企業は1000社以上あり、中堅企業と言われているものも

何百社とあります。確かに売り上げは一部上場と比べ少ないですが、製品やサービスのレベルは一部上場企業と変わらないものが数多くあります。そういう企業の「本質」を見て欲しいと常々思っています。

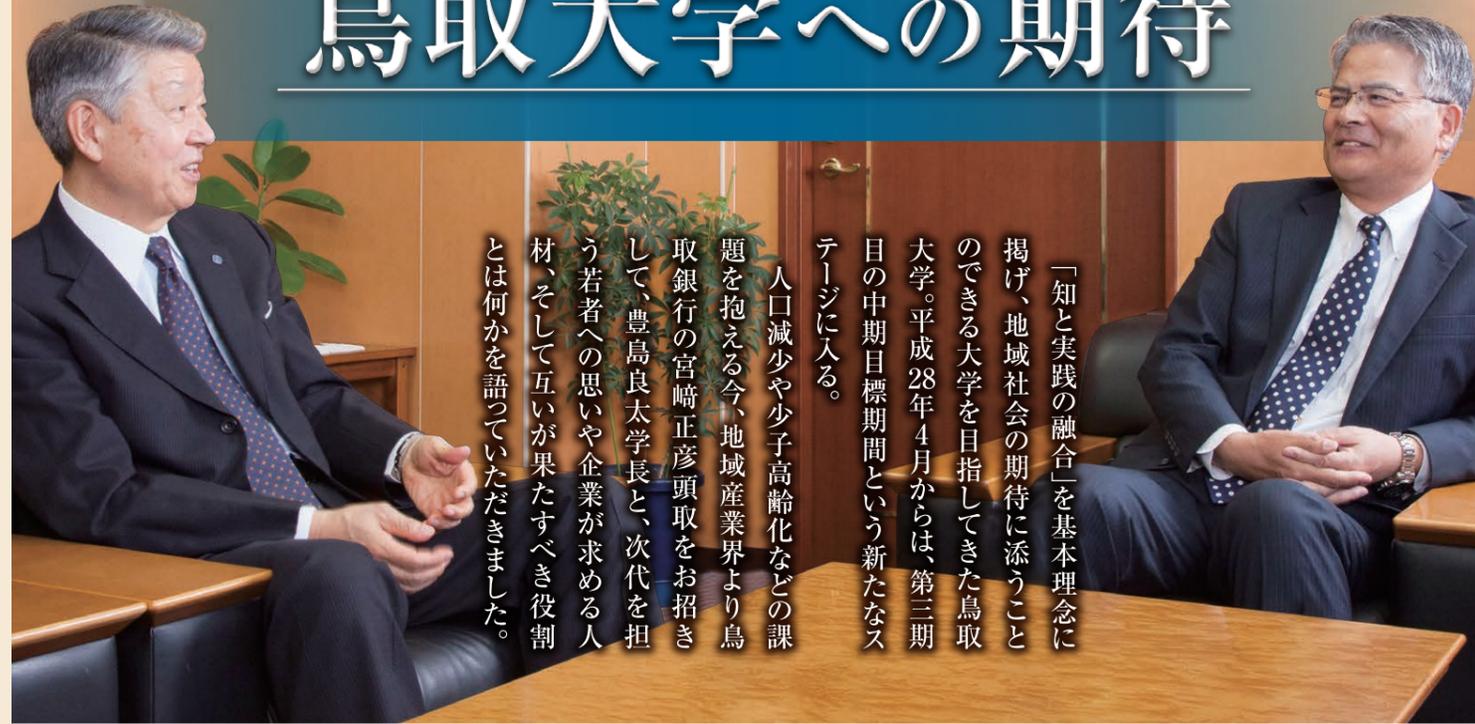
実は私たち銀行員は（企業の）決算書の内容を見るのも大きな仕事です。そうすると鳥取県内で「売り上げはそれほど多くないけど財務内容は非常に良い」「技術力があり、それによって付加価値が上がり利益が出ている」「大企業の孫請けでも存在価値があって非常に付加価値の高い製品を作っている」という企業があることが分かります。

学生さんが「地元企業を」テレビCMで見えないから県内にいい企業はない」と思われるのは残念です。そうならないように各企業の表面的な売上だけでなく、業務内容を含めた本質を知っていただく機会を増やさねばならないと感じています。

企業が求める”即戦力“を大学COCC+（プラス）事業で生み出す

豊島 本学のキャリア教育としても企業の本質を知ることが大切だと実

地域産業界の発展と鳥取大学への期待



「知と実践の融合」を基本理念に掲げ、地域社会の期待に添うことのできる大学を目指してきた鳥取大学。平成28年4月からは、第三期目の中期目標期間という新たなステージに入る。

人口減少や少子高齢化などの課題を抱える今、地域産業界より鳥取銀行の宮崎正彦頭取をお招きして、豊島良太学長と、次代を担う若者への思いや企業が求める人材、そして互いが果たすべき役割とは何かを語っていただきました。

鳥取大学の学生は今こそ企業の”本質“を知るべき

豊島 鳥取県のみならず、日本全体が少子高齢化のため、いくつもの市町村が衰退・消滅すると言われている中で、鳥取大学は地域の中核となり得る人材を育成しています。

現在、鳥取県内の18歳人口が約5000人、そのうちセンター試験を受けるのが2000人、その半分の約1000人が鳥取大学を受験されています。10000人のうち2000人程度が本学合格者です。この地元の2割を除いた8割の方が鳥取県外から入学されています。

大学です。通常の場合4年で卒業していただきます。鳥取大学では「組織の中にあってリーダーシップが取れる人間」「中心的人物になる資質を備えた人間」を主眼に教育をしています。ところで企業が大学側に求める人材として、「即戦力」というものがありますね。

宮崎 それは金融や行政の専門知識を持つている人のことを言っているわけではありません。当然、専門知識は入ってから教えますし、そもそもスキルは自分で得るものだから。私たちが「即戦力」と考える人材は「自ら考え自ら動く人」。言われたことはするけれど、自分から動かないという人は正直ダメですね。自分の勤めている会社について「どうやったらよくなるか」「どうやったら成長できるか」という考えを持つ

業となりますが、鳥取県出身学生約2000人のうち1200〜1300人が鳥取県内で就職しています。県外出身者も100名ほどが県内就職です。近年は県内就職率が高まってきている傾向があります。ただ、まだ全体の約8割の学生が東京や関西地区に就職しており、まだまだ地元経済界に貢献が足りていないかとも思います。

宮崎 鳥取大学さんには就職、そして事業面でも連携を含めてお世話になっていきます。

就職ということも含めて、昨今の鳥取県内の経済状況からお話ししますと、消費税の引き上げの反動は一段落し、平成27年春以降は県内企業での賃上げの動きのほか、プレミアム付商品券の販売などで個人消費

て、その実現に向けて自ら行動できる人を雇いたいのです。

鳥取銀行の場合も「志を持って地域のために何かしよう」「自分の得意なこと地域に貢献したい」という人に入行して欲しいですね。

豊島 まさに鳥取大学の教育指導理念の「人間力」と同じですね。ただ、今の学生は、責任ある立場を避けるタイプが多いように感じます。ストレス社会かもしれないですが、鳥取大学の学生には、宮崎頭取のようにガッツを持つた人間になって欲しいと思いますね。

宮崎 私たちの頃はまだモノ、カネが少ない「いつかはクラウン」の時代でしたから。ただ若い人はやはり「刺激が欲しい」と思っています。実際、動機づけになるようなことがあればそこから急に行動しますよ。



株式会社鳥取銀行代表取締役頭取

宮崎 正彦 みやざき まさひこ

昭和29年鳥取県生まれ。昭和51年同志社大学経済学部卒業、株式会社鳥取銀行入行。平成15年経営統括部長、平成16年取締役常務執行役員、平成20年取締役専務執行役員を経て平成22年代表取締役頭取。



鳥取大学学長

豊島 良太 てしまりょうた

昭和24年鳥取県生まれ。昭和53年鳥取大学大学院医学研究科博士課程修了。鳥取大学医学部附属病院助手などを経て、平成11年鳥取大学医学部教授。鳥取大学医学部附属病院長、医学部長を歴任後、平成25年鳥取大学学長に就任。



実は鳥取銀行もお客様から「若い行員にガッツがない」と言われたことがありました。そこで30歳前後の行員が自ら学び成長することなどを目的に「とりぎんファーム」という若手自主勉強会を立ち上げ、地域貢献策を考えて私に提言してもらいました。やはり私たちと感覚は違いましたが(笑)、よく考えられたものでした。もちろん反映できる企画はやりません。若い人の気持ちを汲む「気持ち」は、今でもしっかりと持っていますからね。

豊島 それは素晴らしい(笑)。若い人の潜在能力を引き出すことからいえば、鳥取大学では平成28年度から文部科学省に採択された「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業(大学COC+(プラス)事業※1)が始まります。本学と県内3大学、米子高専、鳥取銀行、県内9市町などと連携し、地域志向の「教育」、「研究」、

企業でお使いいただけるように計画しています。企業とフェイストゥフェイスで研究開発や対話を増やしていくことで、企業や社会のシーズ※2とニーズのマッチングを図っていきたいですね。
宮崎 ビジネスや社会に新たな価値を生み出すイノベーションを実現するためにも、企業と大学の相互研究はこれからはますます重要になってくるでしょう。最先端技術をどう活用するかについては、経営者サイドも感性が問われています。企業と大学の相互交流という意味では、鳥取県内の中小企業をはじめとする多種多様な業種で、実際の現場に学生が行くことを考えられたらどうでしょうか。製造ラインをリアルタイムで見ること、特に興味がある業種の場合なら実務を理解できるはずですよ。さらに、現場責任者や経営者に話を聞いて現場での生知識を得ること、刺激を受けた学生が「将来的にこういうものを作りたい」と自分のやりたいことが芽生えることもあるでしょう。(現場で)興味を持っていただいた学生が「実際にその企業で働きたい」ということになれば、企業側にとっても大きなメリットが生

「社会貢献」の3つの柱の中で地域志向の人材育成、社会のしくみに対するイノベーション、社会貢献を推進することで地域課題の解決を図っていくようにしています。

この事業の最終目的は地方においてゼネラリストでありながらスペシャリストの能力を備えた人材、宮崎頭取が言われた「即戦力」を育成すること。ひとつのジャンルではなく、金融や経営のことも分かっている、そして地域でのコミュニケーション、人の付き合いもしっかりできる人材をこれから輩出していきたいと考えています。起業家精神も持った人材も創りたい、そのために低学年のうちから、鳥取県内の行政や企業などにインターンシップをさせていきたいと思います。

宮崎 鳥取大学にはいろんな考えを持っている学生がいますから、既存概念にとらわれずにチャレンジ精神で進めていただきたいと思います。

地域を誇る第一歩は地域へ「貢献」すること

豊島 私は松江市の出身で雑賀小学校に通っていた子どもの頃に「この学校は若槻禮次郎という総理大臣が

進める「知と実践の融合」は、そうした相互交流を本当に実践に移したいということが原点になっています。
宮崎 実は、企業と学生が(就職活動以外で)互いに知り合う場合は意外と少ないのが現状です。地域の銀行として地元企業の紹介などはすぐに協力できます。鳥取県の企業で海外と大きく取引しているところもありますので、地方企業だからビジネスは地方だけということはないですし、就職前に興味を持つことができれば、自らの職業観を芽生えさせるいい機会になると思います。

豊島 まずは「自分でやろう」という気持ちを持つことが大切ですね。

出た学校だ」とよく聞かれました。当時は「末は博士か大臣にならないといけん、松江以上に立派な街はない」と思っていました(笑)。

ところが鳥取県内ではそうした街の自慢をあまり言わないように感じますが、やはり何か誇りになるもの、それもストーリーを語れるものがあると地元意識というものも強くなってくるように思います。

宮崎 そういえば、東日本大震災後から鳥取銀行を志望する学生の理由に「地元で貢献したい」という人が増えてきています。

豊島 それは非常に大切なことです。ね。実は鳥取大学には誇りを持ってストーリーがあります。「砂丘」と深く関連した、農学部が取り組む「灌漑農業」です。

鳥取県の沿岸部では、第二次大戦前から戦後にかけて「砂丘の嫁殺し」と呼ばれた、井戸水を砂丘地の畑まで何度も汲んでは撒く過酷な労働がありました。その作業から解放したのが農学部の研究グループが昭和28年に北条・湖山の両砂丘に取り入れた回転式スプリンクラーです。昭和30年代に国の助成が入って北条砂丘から大規模な灌漑農業が可能とな

そのためにもまずは鳥取大学の学生たちに活気が必要です。そして元気のある学生たちが鳥取県に勤めることで地域が元気になっていくようにする。そうした流れはきつと地方創生にもつながると思います。

地方創生の一番地は地域の大学の活気にあり

豊島 そういえば、「鳥取県は「おっとり県」ではいけません」と言われた方がおられました。鳥取大学も「おっとり大学」になってはいけない時代になっていくと感じますが、どうでしょうか。

宮崎 いわばビジネスの世界は競争、それも県内だけではなく県外、海外を含めた競争です。社会人となって企業に勤めるためにも、学生時代からアグレッシブな感覚は持つて欲しいですね。

鳥取県内の企業もこれからは、県外の方から「そこで働きたい」と言われるようにしなくてはならないと思います。同じく鳥取大学も高校生に「どうしても鳥取大学に行きたい」という魅力のある大学になっていただきたいし、期待もしています。

り、日本全国砂丘地の灌漑の標準となりました。その後は砂丘地で水持ちがいい土壌改良等も手掛け、昭和50年代からはイラン、メキシコ・カリフォルニア半島、モロッコ、イスラエルなどにも広がり、世界各地の乾燥地の農業を支えています。

もうひとつ私が期待するのが本学の持つキノコの技術。食はもちろん、キノコ類は抗がん剤やアンチエイジングに活用できる可能性を持っています。農学部には「松茸トリマツを作る」と言っているんですよ。

地元企業と大学の相互交流がイノベーションを生み出す

豊島 地域の大学は地域貢献が大学の大きな使命です。鳥取大学は平成27年9月に鳥取県や公立鳥取環境大学、県産業技術センターなどと「とりイノベーションファシリティアネットワーク」協定を締結しました。研究用設備の相互利用や研究者の人材交流、研究のマッチングなどを通じて、地域産業の高度化や高度な技術者の育成も図ります。企業にもオープンにして、遺伝子の解析装置、X線解析装置など高度な装置を地元

豊島 地方創生のスタートは大学だと思っています。大学に「いい人材」が集まり、地域の現実を理解して「鳥取県にはやりがいがある」と思ってもらいたい。

鳥取大学には毎年1000人単位で入学し、4年間の在学とすれば4000人の若者がいます。若者にとっても魅力のある鳥取大学になる必要があります。

宮崎 魅力ある大学に在学する学生たちが鳥取県内に就職していただければ、大いに県内企業も成長していくでしょう。それはきつと地域の活性化につながります。

いい人材を増やすということにおいて、地方創生が本格的に始まるころからは鳥取大学の役割は非常に大きいと思います。我々県内企業も若い人材を活かし、互いにアグレッシブに地域を発展させましょう。



【用語説明】 ※2 シーズ…元は英語で「種」のこと。企業が有している事業化や製品化すれば消費者にメリットを生む可能性がある技術やノウハウ。

【用語説明】 ※1 大学COC+(プラス)事業…地方の大学群が自治体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出や地域が求める人材養成等の取組を国が支援し、地方への「ひと」の集積を目指す事業。



フィールドでの実践的授業

鳥取大学とメキシコとの間には、乾燥地研究を通して築かれた長年の交流と信頼があります。講義は英語とスペイン語で実施。事前研修と現地とで語学を学びます。滞在期間は約3ヶ月で、前半は現地の研究機関の宿舍で共同生活を送り、後半は各自ホームステイでメキシコの暮らしを体験。滞在中、現地の学生が学友として学びや生活をサポートしてくれます。

メキシコの大地で かたつてない 体験と学びを！

実践教育プログラム



鳥取大学国際交流センター
教授 安藤 孝之

ここでは5つのフィールドワークが実施されます。鳥取大学全学部の教員によるメキシコの自然や文化、農業、社会経済や医療など各分野の授業をもとに学生たちがフィールド調査を行い、成果を英語で発表します。カリフォルニア大学デービス校等、協定大学や研究機関の特別講師陣による講義も用意。かたつてない体験とエキサイティングな日々が、メキシコの大地で待っています！



特集2 国際交流

世界への扉を開く

Global Gateway プログラム

タフで実践力のある人材を育成！

グローバル化が加速する今日、社強い精神力・実践力が求められまグローバル人材を育成するため人間的にも学業的にも大きく成長

文部科学省・日本学術振興会

スーパーグローバル大学事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」

マラヤ大学は、マレーシアでトップの国立大学です。ここでの英語研修プログラムは、実践的な英語力の向上と伝統文化の学習、生活体験に重点を置いています。マレーシアは多文化社会。特に、イスラム教社会を体験できる貴重な機会です。語学授業ではインタラクティブな授業形態で英語実践力を向上させる工夫が盛り込まれています。

多文化社会で コミュニケーション を学ぶ！

マレーシア・マラヤ大学英語研修



鳥取大学国際交流センター
教授 池田 玲子

学生寮でルームシェア。寝食をとるにすることで、教室の中でも外でも絶えず実践的な英語を学べます。マラヤ大学の学生たちも鳥大生から日本の文化についての情報を得ることができ、文化交流から強い絆が生まれて帰国後も深い親交が続く例が多く聞かれます。



伝統文化の授業



鳥取大学国際交流センター
准教授 竹田 洋志

海外実践へとステップアップできるシステムになっています。語学プログラムでは、大山や鳥取キャンパスで合宿する国内プログラムも用意。ネイティブスピーカー講師による英語を目標とします。一連のプログラムは他の大学に類を見ない、鳥取大学ならではの充実したカリキュラムです。



グローバル・国際交流
情報FaceBook



Global Gatewayプログラムのねらい



鳥取大学国際交流センター長
鳥取大学グローバル人材育成推進室
室長 山本 定博

鳥取大学Global Gateway プログラムの派遣先は、メキシコや東南アジア、インド、ウガンダなど、発展途上国、新興国が中心です。日本より自然や生活環境が厳しい土地で、学生たちは自分に足りないものや置かれている状況に気づき、懸命に努力し、タフで実践力のある人材へと生まれ変わります。卒業生にはJICAへの就職者もいます。日本や鳥取で働

発展途上国だからこそ スキルも人間力も鍛えられる！

プログラムのねらい

プログラムは目的と語学能力などに応じて選ぶことができますが、まず語学プログラムで学び、異文化理解、

語学能力	初級	中級	上級
海外実践教育プログラム		鳥取大学ITP(修士課程) 協定校への交換留学	
海外実践教育プログラム	各学部の専門教育で実施する海外プログラム	インドネシア工科大学海外実践教育プログラム メキシコ海外実践教育プログラム	ウガンダマケレレ大学海外実践教育プログラム
語学・異文化理解プログラム		春期台湾銘傳大学英語研修プログラム 夏期台湾銘傳大学中国語研修プログラム 夏期・春期マレーシアマラヤ大学英語研修 夏期・春期大山短期集中英語研修	
語学プログラム		夏期カナダ英語研修 夏期アメリカ英語研修 春期オーストラリア英語研修 春期アメリカ英語研修 ハンリム大学語学研修(地域学部のみ)	

Global Gatewayプログラムの位置づけ

個々のニーズに応じた多様なプログラム

Global Gatewayプログラム



葉狩 現地でお世話になった学生の優しさです！台湾では毎晩の夕食をいろいろと案内してくれたり、週末旅行に連れて行ってくれたり、部屋で朝まで話し込んだり、マレーシアでもどこへ行くにも一緒にいてくれました。友だちとしての距離感がすごく

Q 留学中、特に印象に残ったことは？

秋本 僕は大学生協で開催された1年生のための英語講座を受講しました。聞くことは苦手でしたが伝えることはできると手応えを感じ、リスニングを鍛えにマレーシアに行きました。

伊藤 僕は第二外国語でスペイン語を取っていたので挨拶などの基礎はありましたが、現地での努力を要しました。行く前にできるだけのことをした方がいいと思います。

森田 英語が通じなくてショックを受けた経験があったので、留学生たちが集まる「語学シャワー室」に通い続けました。喋らないと忘れてしまっ気がして。



秋本 日本のまちは宗教色が

近くて、それがとても心地良かったです。

伊藤 貧しい人たちもすごく陽気で幸せそうだったのが印象的でした。友だちも「お金がない！」と言いながら毎日楽しそう。日本は豊かすぎて忙しいのかな。

地域学部3年
いとう こうた
伊藤 光汰さん
留学先
メキシコ等

工学部3年
はがり なつみ
葉狩 奈津美さん
留学先
台湾・マレーシア等

工学部3年
もりた かい
森田 海さん
留学先
台湾・ウガンダ等

鳥大学生対談 Student's VOICE

世界にはばたく鳥大生 編

農学部2年
あきもと こうた
秋本 弘太さん
留学先
マレーシア
ウガンダ



Q 留学のきっかけは？

伊藤 僕は地域学部で、異文化や国際交流を学んでいます。日本との違いを大きく感じられる地域を求め、数カ国への短期渡航を経てスペイン語と経済を学べるメキシコに1年留学しました。鳥取大学に日本語研修に来ていたメキシコ人の友だちの影響も大きいです。

葉狩 中学生の頃から英語が好きでした。海外ドラマや洋楽に親しみいつか彼らの国に行ってみたいと(笑)。高校1年生でシアトルに行きましたが、自分の英語があまり通じなくて悔しかった。そのとき再チャレンジを誓い、大学2年生直前の春、台湾銘傳大学の英語研修プログラムに参加しました。これがとても楽しくて、次の夏休みマレーシアのプログラムにも参加しました。

秋本 僕は1年生のとき、大学で思ったほどおもしろくないなあと感じていました。自分は何をしているんだろうと悩んでいたら、チューターの先生が「海外に行った

ないですが、マレーシアではまちなモスクなどの宗教施設が多くあり、多民族多文化を実感しました。ウガンダは舗装されていない道路が多かった。雨でぬかるんだ道にタイヤをとられて、鳥大のコーディネーターさんとバスを持ち上げたことも楽しい思い出です。

伊藤 自分にとって当たり前なことが、当たり前でない世界があると気づきました。自分の内面を見つめるきっかけとなり、寛容さが生まれました。そして語学力だけでなく、教養が必要だということも強く感じました。

葉狩 海外に友だちができたことで、国際的な事件や情勢を意識するようになり、世界が広がりました。地震など、何かニュースを目にすると連絡を取ります。友人のいる国は特に、以前より身近になりました。

森田 JICAや国連職員などを目指していたのですが、現地で起業している日本人と出会い、ピ

Q 留学をする前と後とで、自分がどう変わった？

伊藤 自分にとって当たり前なことが、当たり前でない世界があると気づきました。自分の内面を見つめるきっかけとなり、寛容さが生まれました。そして語学力だけでなく、教養が必要だということも強く感じました。

Q 留学の準備は どうしましたか？

伊藤 僕は留学の半年前にメキシコ行きを決め、家族に話しましたが、過去に危険な事態はなかったことや、本当に行って勉強したいという気持ちを伝えたら応援してくれました。資金は親の仕送りに加え、日本学生支援機構海外留学支援制度を利用しました。月6万円の給付は、メキシコで暮らすには充分でした。

葉狩 私はマレーシアも台湾も、バイトをして自分で行きました。物価の高い国でなければ、何とかなると思います。マレーシアに行く前は1週間ほど語学強化コースで集中して英語を学びました。

森田 僕は鳥取大学で留學生のパートナーを務めていたのですが、実際に自分が留學生になってみて、見知らぬ国でどれだけ不安かがよくわかりました。留学先で温かいサポートを受け「こういうことをするべきだった！」と気づきました。それから何をすれば相手が好きか、助かるかを考えて行動するようになりました。

秋本 これまで短期留学が2回、次はメキシコに3ヶ月行きたいと思っています。その次はまだ行ったことのない国に1年以上留学してみたいです。

葉狩 まだ進路に迷っています。大学院に進学することになったらアメリカに長期留学したいです。化学の分野で海外で活躍するのが夢です。

Q 留学を終えて、次の目標は？

伊藤 1つは、これから多文化社

会が進んだ際、どのような在り方がいいのか、人が混ざり合ったときどのように接すべきかを研究したいです。もう1つは、世界の経済格差をなくすための研究をできたらと考えています。

森田 僕は将来、どれだけ社会に貢献したかを指標とする「社会起業」に挑戦したいと思っています。まずは工学部生として自分のスキルを高め、海外の大学院で最先端を学び、それらを途上国の貢献に活かしたいです。



秋本 僕はマレーシアもウガンダも、家族が資金を出してくれました。次はバイトをして長期留学したいです。短期では短い！

葉狩 慣れた頃に帰らないといけない。

秋本 それで、空港で抱き合っ

て号泣。

三人 それ鉄板！



三人 それ鉄板！

エキナセアとは

植物や菌類は、様々な物質を作っています。病原菌や昆虫から身を守るため、あるいは、花粉や種子、胞子などを動物に運ばせるため化学物質を利用しているのです。私たちの天然物化学研究室ではこのような生物種間ではたらいっている物質について調べています。また、植物や菌類が作る化学物質には思いもよらないような作用があることもあり。先頃、ノーベル賞を受賞した大村智先生は、寄生虫に効果があるエバーメクチンという物質を土の中の微生物、放線菌から発見しました。現在では、広く医療に利用されています。



大山山麓のエキナセア畑

私たちが、植物や菌類から暮らしに役立つ物質を探していました。

私たちのもとに、大山農業改良普及所の田平弘基さんから、エキナセアという植物に関する研究の提案が持ち込まれたのは2010年のことでした。エキナセアはインフルエンザウイルスの増殖を抑制するらしいのでその成分を調べたい、というものでした。

エキナセアは、北米を原産とするキノ科の薬用植物です。北米の先住民はエキナセアを万能薬として使っていました。1870年代、メーヤーという人物がこれを知り、エキナセアの抽出物を瓶に入れて売り出しました。風邪の症状を抑え、へびにかまれた傷にも効果と謳っていました(現在では、へびのかみ傷の治療に役立つとは考えられません)。その後、欧米では民間薬として使用されるようになり、現在でも、エキナセアから作られたサプリメントやシロップなどが広く販売されています。エキナセアの成分については、さまざまな効果が研究されています。その中の一つにインフルエンザウイルスの増

殖を抑制するという研究がありました。しかし、どのようなしくみで作用が現れるのかについては、まだよくわかっていませんでした。

2010年当時、日本でのエキナセアの知名度は低く、栽培もあまり行われていませんでした。前年の2009年は世界で新型インフルエンザが大流行した年です。エキナセアを栽培して、ハーブティーを販売すればインフルエンザの流行を抑えられるかもしれない。さらに、エキナセア栽培によって鳥取県の中山間地域の農業を活性化することができるとは思わなかった。そこで、2010年から大山山麓でエキナセアの栽培が試験的に開始されました。2012年には早くも「大山エキナセアティー」という名称でエキナセアから作られたハーブティーの販売がスタートしました。

このようななか、田平さんはエキナセアが本当にインフルエンザウイルスの増殖を抑制することができるのか。そして、増殖を抑制したらどの

ような成分が関わっているのかを明らかにしたい、という考えのもと鳥取大学を訪問されたわけです。



石原 亨 教授

抗ウイルス成分を探す

まず、私たちは、果たしてエキナセアにインフルエンザウイルスの増殖を抑制する効果があるのかを調べることにしました。そのため、エキナセアの抽出物を作成し、それをインフルエンザウイルスに投与する実験を行いました。ウイルスへの投与実験は医学部医学科の景山誠二先生が担当されました。ウイルスは単独では増殖できないので、動物の細胞を培養して、そこにウイルスを接種します。エキナセアの抽出物も同時に投与

大学でのエキナセア研究



して、一定時間培養します。その後、動物の細胞に感染して増殖したウイルスの量を測定しました。すると、エキナセアの抽出物を投与して培養した場合に、確かにウイルスの増殖が抑制されていました。

次に、どの成分がウイルスの増殖を抑制するのかを調べる必要があります。私たちの研究室の西岡奈々江さんが実験を担当しました。物質の精製にはクロマトグラフィーという方法を使います。シリカゲルという物質に対する結合のしやすさの違いを利用して物質を分けて行く方法です。ところが、クロマトグラフィーを繰り返すと、ウイルスの増殖を抑える効果が低くなり、最後には効果がなくなってしまいました。

た。これにはいくつかの理由が考えられます。ウイルスの増殖を抑制する物質は一つではなく、複数の成分が共存しないといけないのかもしれない。あるいは、不安定で、取り出そうとすると分解してしまう可能性もあります。残念ながら現在まで、どの物質がインフルエンザウイルスの増殖を抑えるのかを明らかにすることはできていません。



いろいろなエキナセア製品

続いて、エキナセアの抽出物が、養鶏業に大きな打撃を与える鳥インフルエンザウイルスの増殖も抑えることができるのかを調べることにしました。ウイルスへの投与実験は共同獣医学科の曾田公輔先生に行ってくださいました。鳥インフルエンザウイルスの増殖を抑える成分がやはりエキナセアの抽出物に含まれていることが分かりました。

ウイルスの増殖を抑える物質は、茎と葉に含まれていることも分かりました。エキナセアには他にも様々な作用があるようです。現在、農学部生物資源環境学科の藪田行哲先生と共同でエキナセアがもっている抗酸化物質、抗炎症物質、それから、虫菌発生を抑制する物質などの探索を始めました。まだ始まったばかりですが有望な結果も得られています。エキナセアにはまだまだ秘密が隠されています。

大学でのエキナセア研究の意義

ここで、大学でエキナセアの研究を行うことによってどのような意義があったのか振り返ってみたいと思います。

まず、医学部や獣医学科の先生方とチームを組んで共同研究を行うことで、エキナセアにはインフルエンザウイルスの増殖を抑制する成分が含まれていることをはっきりと示すことができました。手軽な食品をとることで、知らず知らずのうちにインフルエンザに感染する確率を減らすことができるのであれば、その影響は実は大きいはずです。研究が、健康増進に寄与できるのであれば、研究者としてとても嬉しく思います。

研究の成果はいくつかの学会で発表することができました。そのほか、鳥取県が主催する鳥取産産フェスティバル

で研究成果を報告し、優秀研究賞を受賞することができました。さらに、東京で開かれた全国エキナセアフォーラムなどでも研究を紹介しました。このような活動を通して、エキナセアというハーブの効果や魅力を広く社会に発信することができたと考えています。大学での研究がきっかけに、大山地域で生産されたエキナセアを使用した製品を新たに開発したいと考えている企業もあると聞いております。

鳥取大学が鳥取県に存在する理由の一つは地域からの要請に応えるためだと考えます。また、地域と連携して研究を進めることは、学生に対する教育の面でも大きな意義が有ることをエキナセア研究を通して実感しました。研究を大きく発展させて、エキナセアを地域と連携した研究の成功例としたいと考えています。



鳥取産産フェスティバルで発表する西岡奈々江さん

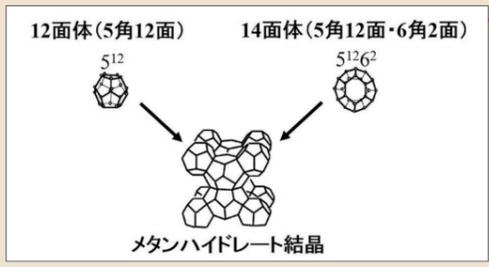


図4.メタンハイドレートの結晶構造
水分子が多面体を形成しメタン分子を閉じ込める(包接構造)。

形成する多
水分子が
含まれ
メタンガ
1本分に近
中に牛乳瓶
角砂糖に例
えると、その
角の小さな
角砂糖に例
えると、その
1本分に近
いメタンガ
スが含まれ
ています。
水分子が
形成する多

「燃える氷」の正体

メタンハイドレートは、水分子が2種類の籠状の構造(12面と14面の多面体)をつくり、籠の中にメタン分子を閉じ込める特徴的な結晶構造を持ち、包接(クラスレート)化合物と呼ばれる物質の仲間です(図4)。メタンハイドレートは、この包接構造のために、メタンガスを多量に含むことが最も大きな特徴と言えます。具体的には、1m³のメタンハイドレートに、標準状態換算16.4m³のメタンガスが含まれています。すな

わち、「燃える氷」を1cm角の小さな角砂糖に例えると、その中に牛乳瓶1本分に近いメタンガスが含まれています。水分子が形成する多

研究テーマ

メタンハイドレート 科学講座の開設

工学研究科 社会基盤工学専攻 寄附講座教授 海老沼 孝郎

平成27年10月1日、鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻に、鳥取県の寄附講座として、メタンハイドレート科学講座が開設されました。

この新設講座は、新しい国産天然ガス資源として期待されている「燃える氷」メタンハイドレートに係わる海洋調査、ガス生産のための技術開発、環境影響評価などに携わる人材の育成を目指しています。

今回は、「燃える氷」と新設講座を紹介します。

「燃える氷」は将来の 国産天然ガス資源

天然ガスは、日本の一次エネルギー供給の約25%を担っており、石油(約40%)に次いで、石炭(約25%)と並ぶ重要なエネルギー源です(熱量換算の比較)。天然ガスは、化石燃料ではあっても、発熱量あたりの二酸化炭素排出量を比較すると、石油の約60%、石油の約80%であり、地球温暖化対策の観点からクリーンエネルギーとして、導入促進が求められてきました。特に、東北地方太平洋沖地震の後、原子力発電所の停止に伴い、代替エネルギーとしての需要増が顕著となっています。しかし、日本が消費している天然ガスの97%以上は、液化天然ガス(LNG)として輸入されており、その輸入量は年間約9千万トン、輸入金額は7兆円を超えています。このような厳しいエネルギー事情において、ここで紹介するメタンハイドレートは、我が国の排他的経済水域に賦存する新たな国産天然ガス資源として注目を集めています。

メタンハイドレートの外見は、氷あるいは乾いた雪と全く区別できません(図1)。大量のメタンガス、すなわち天然ガスの主成分を含んでい



図1.「燃える氷」
(人工メタンハイドレートの燃焼)

ます。常温、常圧では不安定であり、直ぐにメタンガスと水に分解してしまします。ただし、高圧状態であれば、プラス温度でも融けることはありません。写真のメタンハイドレートは、高圧実験装置で製造した後に、液体窒素を使用して冷凍保存したものです。メタンハイドレートの性質については、後ほど「燃える氷」の正体」の項で紹介いたします。

鳥取県の取り組みと メタンハイドレート 科学講座の設立

鳥取県は、鳥取沖を含む日本海のメタンハイドレート調査を促進する目的で、調査の中核となっている明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所と協力を構築しています。平成27年9月には、鳥取県が提供した鳥取港湾事務所内のスペースに、明治大学鳥取メタンハイドレートコアセンターが設立されました。この施設は、日本海における表層型メタンハイドレートの掘削調査等で採取された地質コア試料を保管する大型冷蔵庫を備えており、今後の調査研究における拠点の一つになるものです。

メタンハイドレート科学講座は、鳥取県の寄附講座として、表層型メタンハイドレートに係わる海洋調査、ガス生産のための技術開発、環境影響評価などを担う即戦力となる高度な技術者を地元で育成することを目的に設立されました。平成28年度から5年間、一学年5名程度の博士前期課程の学生を受け入れる予定で

メタンハイドレートは、日本周辺の海底堆積層に広く分布していることが明らかになり、新しい天然ガス資源として脚光を浴びています。これまでの調査研究により、日本周辺のメタンハイドレートの産状は、砂質孔隙充填型(砂層型)と表層型の2種類に大別されます(図2)。いずれの産状のメタンハイドレートも、安定に存在できる水圧と地層温度の条件から、水深が概ね500mを超える海域に分布しています。砂層型は、海底面から数百メートルの深さの砂の間隙中に微細なメタンハイド



図3.表層型メタンハイドレート
(明治大学ガスハイドレート研究所提供)

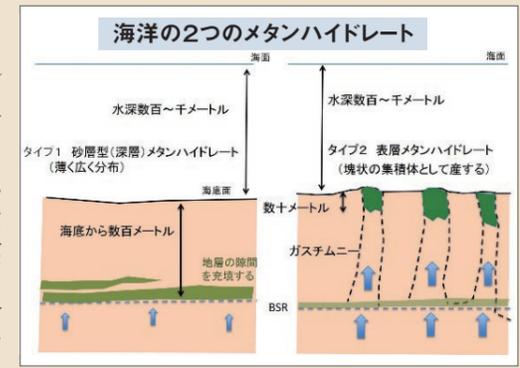


図2.砂層型と表層型のメタンハイドレート(明治大学ガスハイドレート研究所提供)

これに対して、鳥取沖を含む日本海のメタンハイドレートは、海底面から浅層部に塊状のメタンハイドレートが濃集した産状であり、表層型メタンハイドレートと分類されて

メタンハイドレートが存在するもので、東海沖から熊野灘に至る東部南海トラフなどに分布します。東部南海トラフのメタンハイドレートについては、すでに資源量調査結果が報告され、濃集帯においてガス産出試験が実施されています。

工学研究科社会基盤工学専攻
寄附講座教授
えびぬま たかお
海老沼 孝郎

【略歴】 昭和61年北海道大学大学院理学研究科博士後期課程地球物理学専攻単位取得退学、昭和62年3月理学博士。民間企業、産業技術総合研究所及び明治大学におけるガスハイドレート研究を経て、平成27年より現職。

【専門】 ガスハイドレートの基礎物性と工業利用技術の開発、メタンハイドレート資源の生産手法開発

【趣味】 ハイキング

高校生から大学生への スムーズな移行を支援します！



入学センター 准教授
森川 修

入学センターでは、AO入試と推薦入試Iの合格者に対して、eラーニングを用いた入学前教育を行い、学習習慣の継続を促しています。

入学センターでは、学生募集の企画立案、入試情報の提供、入試の実施などさまざまな業務を行っています。ここでは、その業務の1つである「入学前教育」について紹介します。

近年、AO入試等での早期合格者の学力について、問題視されていますが、彼らは、とても意欲的でしっかりとした目的意識を持っていて、その目的を達成するために、もっとも大切なことは、大学合格から入学までの過ごし方です。そこで、鳥取大学では、AO入試と推薦入試Iの合格者に対して「入学前教育」を行っています。

入学前教育での最大の目的は、高校生活で身に付いた「学習習慣の継続」です。それをサポートするために合格後から入学前まで「eラーニング」を実施しています。eラーニングとは、webが使えるパソコンやタブレットなどで、自学自習をするシステムです。

第3回 大学生活 色々あります。

学生支援センター
井上 菜穂

学生支援センターでは今秋から、「TOTTOS(トス)」、「チャットカフェ」という2つの新企画が始まっています。「TOTTOS」はランチタイムに学生支援センターを開放する時間を設定しています。ランチタイムの食堂は行列ができてにぎわっている反面、その中で食事をとることを苦手とする学生も多くいます。そのため、学生支援センターの落ち着いた雰囲気の中で、昼食を食べたり、休憩をしたり、趣味のものを作成したりしながら1時間をマイペースに過ごしています。

また、「チャットカフェ」は月に2回、お茶とお菓子をつまみながら、カウンセラーを交えて少人数で話をする時間を設定しています。個別のカウンセリングと違って、他の学生と話をしないといけない場面もありますが、この場をきっかけにして学生間の情報交換や交流のきっかけとなることを期待しています。

学生支援センターでは今後も学生の仲間づくり、学内での居場所づくりに焦点をおいた企画を計画していく予定です。

vol.03 シューカツ日記



いまにし たかひろ
今西 隆博
地域学部地域環境学科4年
平成28年3月卒業予定
西日本旅客鉄道株式会社に内定

こんにちは。いよいよ、3月から就活がスタートするわけですが、私の経験から少しだけアドバイスをしたいと思います。

- ・ポイント1「就活スケジュール」
2016年度卒採用から採用時期が変わりました。しかし、その通りにスケジュールが進んだわけではなく、むしろ不規則になっていたのが実情です。それに対応するためにも説明会後すぐに採用試験対策に取り組むことが良いと思います。
- ・ポイント2「エントリーシート(ES)」
面接はESに基づいて質問されるため、丁寧に書くことが重要です。私はまず、企業研究から企業が力を入れていること、どんな人材が必要か、企業の課題等を同業他社比較も含め分析しました。そして、その企業に合うように、取り組みたいことや売り出したい点を丁寧に書くよう心がけました。
- ・ポイント3「面接」
面接の直前は誰もが緊張します。しかし、しっかりと備えておけばリラックスして話すことができます。私はキャリアセンターで何度も練習を重ねたことで、自信を持って落ち着いた面接に臨むことができました。
- ・最後に
就活で自信過剰になることは禁物です。自分の欠点がわからなくなります。そうならないためにも、周りや協力しましょう。また、キャリアセンターを活用してES・面接等の対策をすることも重要です。そうすることで、今まで見えなかった欠点を見つけられ、ベストを尽くすことができました。
みなさん、目標に向かってぜひ頑張ってください。

県内唯一の 法医鑑定機関を支える



教授
飯野 守男

【医学部医学科 社会医学講座法医学分野】

平成27年9月に、医学部法医学分野に着任しました。私は米子生まれの米子育ちです。中学校卒業時点で「他人とは違った仕事に就きたい」との思いから、「法医学者」を志し、その夢を実現すべく米子東高校卒業後、本学医学部に入学しました。附属病院での研修の後、法医学の道へ進むべく大阪大学大学院へ入学し、以後は多くの経験を積むため、都市部の三大学(京都大学、大阪大学、慶應義塾大学)の法医学教室で教育・研究・実務を行ってきました。

法医学は、法律と接点のある案件に関して医学的助言を行う社会医学分野です。主に事件や事故で亡くなった可能性のある方の体を調べ、各種の医学的判断するのが仕事です。つまり、一般の診療科と異なり、人の死に積極的に関わる医学分野で、県内では当教室が法医学解剖を行う唯一の機関です。

人の死は誰にでも平等に一回だけ、必ず訪れるものです。そして多くの人が、愛する家族が亡くなった時、その原因を知りたいと考えています。鳥取県は人口が少なく都市部からも離れています。だからと言って適切かつ平等な死因究明を行わなければ、社会秩序が保てなくなり、私はこれまでの都市部での死因究明の実績や経験を活かして、死因究明を通じて、故郷の治安維持に貢献するとともに、母校の発展に尽力する所存です。

教育面では、鳥取大学からあらたな法医学者が現れることを切に願いながら、人材育成にも努めたいと考えています。医学部生はもちろんのこと、中毒学、DNAを扱う人類遺伝学、さらには犯罪学といった法医学の関連分野に興味のある他学部、大学院生も待っています。

糖尿病療養指導から 学んだ私の意識改善

患者さんと共に歩み支えあう関係から



助教
酒井 知恵子

【医学部保健学科 看護学専攻成人・老人看護学講座】

平成26年4月に保健学科成人・老人看護学講座の助教として着任しました。専門は糖尿病看護です。着任以前は、米子市内の病院で看護師・糖尿病療養指導士として勤務していました。糖尿病療養指導士は、患者さんに糖尿病の症状や治療について説明し、生活習慣改善の指導と支援を行います。患者さんが生活習慣の改善に取り組んでいる姿や元気になる姿を見ていく姿を見ると、看護師としてのやりがいを感じるとともに、他では経験できない職業だと思っています。

糖尿病患者さんに食事指導を行うと、多くの方から「わかってはいるけど、なかなか難しい」という声をよく耳にします。その言葉を聞くと、どうしたら実行できるようなのかという疑問と、この点を改善できたらもっと多くの患者さんの力になれるのではないかと感じています。そして効果的な糖尿病の食事指導法を見つけたと考えたと同時に、鳥取県の糖尿病療養指導士が少ない現状(2014年現在で約70名)を看護を目指す多くの学生さんに伝えたく教育の分野にとび込んできました。

研究活動では、糖尿病患者さんの食習慣の改善において重要となる、食嗜好に着目し、「糖尿病患者と味覚」をテーマとして研究に取り組んでいます。また、鳥取大学・国際乾燥地研究教育機構で人間開発プロジェクトのメンバーとしてフィリピンの低所得者層地域における糖尿病予防事業に参加しています。これら研究を通して市民の方々の糖尿病についての理解とより良い治療法を見つけている事を目指しています。

最後に、看護師を目指す学生さんには、患者さんの「わかってはいるけど」を理解できるように努めたいです。そして、「わかった。自分にも出来そうだ。がんばってみます」と患者さんのやる気を引き出し一緒にがんばる、患者さんのよき理解者になってほしいと思います。

二次被ばく医療施設を使った 原子力防災訓練を実施

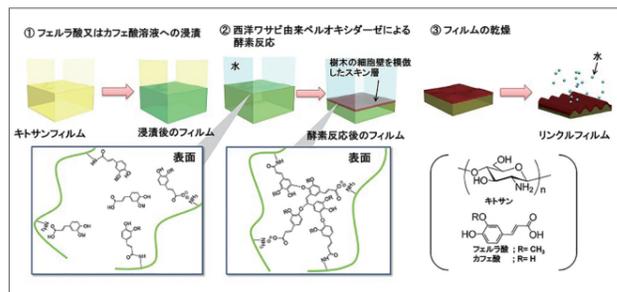


10月25日、鳥取・島根両県で、島根原子力発電所の事故を想定した防災訓練が実施されました。二次被ばく医療機関である医学部附属病院もこれに参加し、関係機関との連携や患者受け入れ等の実動訓練を行いました。患者役の住民の方が自衛隊の車両により搬送され、放射線量の計測や除染、汚染防止の手順などを確認しました。



訓練の様子

工学研究科の井澤浩則助教らが 天然素材のみから 微細構造表面の構築に成功



本研究の概要

工学研究科の井澤浩則助教、齋本博之教授の研究グループは、カニ殻由来のキトサン、米ぬかに含まれるフェルラ酸やコーヒーに含まれるカフェイン、西洋ワサビに含まれるペルオキシダーゼ酵素を用いて、フィルムの浸漬と乾燥だけの簡便なプロセスで微細構造表面を製造する手法の開発に成功しました。本研究は、天然の素材と簡便なプロセスのみを用いて微細構造表面を製造した世界初の例であり、バイオマス資源を主体とした微細構造表面の製造における基盤技術になると期待されます。

なお、本研究は、鳥取県環境学術研究等振興事業「カニ殻に含まれるキチン・キトサンを活用したバイオマテリアルの開発」(研究代表者:井澤浩則)の支援を受けて行われました。

OB 講演会を開催

11月17日、鳥取大学学友会主催により、OB講演会を開催しました。

本年は、農学部で、現在、兵庫県養父市の市長として活躍されている広瀬 栄氏を講師にお迎えし、「養父市の反乱〜地方から国を変える〜」と題して、国家戦略特区第1弾の指定を受けるなど様々な改革事業に取り組む中で、弊害を乗り越える情熱、考え方など、経験談を交え熱く語っていただきました。



講演する広瀬養父市長

また、学生には、養父市の先人、池田草庵先生の「志期高遠功貴切近(志は大きく高く持ち、それを成し遂げるためには、身近なことをこつこつとやっつけていくことが大切である)」の言葉を紹介し、「初心を忘れず、挑戦する気持ちと行動力を持つこと」と、エールを送られました。

会場の農学部大講義室には、定員を上回る約250名の学生、教職員が集まり、参加者は熱心に耳を傾け、とても有意義な講演会となりました。

「留学生を囲む集い」を開催

12月1日、鳥取キャンパスで「留学生を囲む集い」を開催し、留学生、教職員、日本人学生ら約180人が参加しました。

この会は、留学生、教職員、日本人学生に楽しく交流してもらおうと企画・開催するもので、毎年恒例の行事です。

豊島学長の挨拶の後、山本国際交流センター長の乾杯の音頭で会がスタート。料理を食べながら交流を深めました。歓談の後には、留学生や日本人学生によるパフォーマンスが行われ、インドネシアチームは「アチエ地域の踊り」を、中国人留学生チームは「伝統舞踊」と「モダンダンス」を、韓国の留学生は「ギターによる弾き語り」を披露しました。



交流を深める参加者たち

また、日本人学生チームは、「マレーシアダンス」や「日本クイズ」を行い、会場は大いに盛り上がりました。

留学生や教職員、日本人学生らが一堂に会して交流の輪が拡大し、とても有意義な会となりました。

学生食堂でハラール 推奨メニューの提供を開始

鳥取キャンパスの学生食堂において、11月9日からハラール推奨メニューの「チキンカレー」の提供を開始しました。

本学にはムスリム(イスラム教徒)の留学生が在籍していますが、宗教上の理由から他の学生と同じ食事が取れません。こうした学生の生活を一層支えたい、学生食堂での食事を楽しんでもらいたい、という思いから今回のメニュー提供となりました。

ハラールは、イスラム法で合法なものを意味します。カレーには、ハラール認証の鶏肉を使用し、豚肉やアルコール類を使用しない、また、鍋や包丁などの調理器具も一般の調理とは別にするなどし、さまざまな課題をクリアしました。



笑顔で食事をする留学生

当日は、10人のムスリムの留学生が学生食堂を訪れ、チキンカレーを堪能し、「安心して食べられて嬉しい」、「とても美味しいです」と笑顔で感想を述べました。

主権者教育講演会を開催

12月3日、主権者教育講演会を開催し、学生教職員あわせて約130人が参加しました。

講演会は、公職選挙法の改正により選挙権年齢が引き下げられ、18歳、19歳の学生も有権者となることをふまえ、学生に政治や社会に対する関心を高め、主体的に参加してもらうことを目的として開催したものです。

講師には、神奈川県立湘南台高等学校の黒崎 洋介先生をお迎えし、「18歳を市民にするには〜神奈川県立湘南台高校におけるシチズンシップ教育の取り組み〜」をテーマに講演いただきました。黒崎先生は、同校が公民の授業だけでなく、学校の教育活動全てでシチズンシップ教育に取り組んでいること、その要に「総合的な学習の時間」を据えていることなどを説明



講師の神奈川県立湘南台高等学校 黒崎 洋介先生

されました。また、同校で行っている模擬投票や湘南台ハイスクール議会(模擬議会)について、実際の教材や映像を交えながら分かりやすく紹介され、参加者は興味深く聴講していました。

【鳥取大学工学部創立50周年】 記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙



河田工学部長の式辞



記念講演を行う太田浩一氏

鳥取大学工学部が昭和40年の創立から50年を迎え、10月24日に創立50周年記念式典、記念講演会及び記念祝賀会を挙りました。

式典には、文部科学省をはじめ国会議員、関係自治体、地元産業界、名誉教授、同窓生、教職員約250名が出席し、盛大に執り行われました。河田康志工学部長の式辞、豊島良太学長の挨拶の後、ご来賓の方々より祝辞をいただきました。後藤知伸教授が記念事業を紹介した後、杓見吉晴教授が工学部50年の歩みを紹介し、出席者とともに創立50周年を祝いました。

引き続き行われた記念講演会では、工学部卒業生で、現在、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社取締役・専務執行役員として

ご活躍中の太田浩一氏から、「仕事の中で如何に喜びを見つけるか」と題し講演が行われ、出席者が熱心に耳を傾けました。

講演会終了後には会場をホテルニューオータニ鳥取に移し、記念祝賀会が盛大に開催されました。ご来賓の方々より祝辞をいただいた後、道上正規元学長のご発声で乾杯が行われ、出席者が和やかに懇談しました。最後に、湊正彦工学部同窓会長の万歳三唱により祝賀会を締めくくりました。

この日の式典等を通じて、工学部50年の歩みを再認識するとともに、今後の発展に向け結束を強めるよい機会となりました。

記念式典・講演会場の様子



サークル紹介 | 軽音楽部

部長
しょうがき りょうじろう
正垣 亮治郎さん
(地域学部 3年)



現在の部員は約80人。男女比で見ると、若干男性の方が多いです。大学に入る前から楽器をしていた経験者も、大学に入ってから始めた初心者もいます。近年では初心者が入部する割合が増えました。

軽音楽部では、部員たちがそれぞれバンドを組んで活動します。1年を通して組む「正規バンド」(2つまで所属OK)と、1か月ごとに変わったメンバーで単発に組む「企画バンド」という、メンバーや音楽が異なる2種類のバンドに所属し、ライブに向けて練習に励んでいます。ライブはエンタリー制で、時期によって様々なライブ(新入生歓迎ライブや忘年会ライブなど)が行われます。初心者で入部した部員も、先輩たちのライブの演奏から学んだことを活かして上達を目指しています。

部員はバンドの垣根を越えて仲がよいです。それでもメリハリは必要ですので、バンドの練習ではしっかり意見を言い合って、いかに自分たちが思う



サークル紹介記事は、学生広報スタッフが担当しました。



音楽に作り上げるかを考えて活動するように心掛けています。

定期演奏会と米子地区の軽音楽部との合同ライブは、オーディションで参加できるバンドを決めます。ライブに参加できることはもちろんやりがいですが、しかしそれと同時に皆でライブを楽しむことが一番大事かなと思います。今後は、僕たち軽音楽部員と観客が一体となって楽しめるようなライブを作り上げていきたいです。

リーダーズ・ボイス Reader's Voice



このコーナーでは、前号(47号)の読者アンケートに寄せられた読者の皆さんの声をお伝えします。

誌面作りに活かしていきますので、風紋への感想やご意見などをお寄せください。

47号はここがよかった

- 特集「日本唯一のきのこの教育・研究施設」
日頃は全く意識していなかった、きのこに対する見方が変わりました。菌株の分譲など初耳の事が沢山あり、勉強になりました。(50代、女性)
- 話題の研究「超音波検査で胃の中が見えるって本当!」
エコーも何度か受けましたが、技術の向上が写真を通してよく分かりました。(50代、女性)
- 学生対談
「学びが充実!大学院生編」
来年度、子供が大学院に進学することが決まったため、学生対談は興味深かったです。
今回の大学院生編は、大学院を考えている下級生にとっても参考になっていると思う。(50代、女性)
- 風紋は毎号様々な視点から、教育・研究、そして鳥取大学で日々成長していく学生の姿を取り上げています。47号の学生対談では、大学院で学ぶ学生の生の声をお届けしました。大学院の学びの魅力がみなさまにも

こんなご意見も

- 「トビタテ留学 JAPN 日本代表プログラム」に合格された方が3人もおられてすごい!と思いました。今度できることをしっかりとチャンスを活かして実行してください。(40代、女性)
- 子供の会話だけでは得ることのできない情報を知ることができ、親子で話す機会が増えました。定期的に有意義な情報を楽に受け取ることができ、良かったです。(50代、女性)
- 良い紙の印刷、カラーが良い。ますます読者の気持ちになって発展を。(70代、男性)
- 最近の大学の動き、特に力を入れていた点などを中心に取りあげていただきたい。(70代、男性)
- 鳥取大学には、様々な場所で活躍している教員、学生がたくさんいます。そんな方々を少しずつでもご紹介できればと思っています。そして、みなさまの「知りたい」ことがたくさん詰まった広報誌を目指します。そのためにも、みなさまの感想をお寄せいただけますと幸いです。(TN)

鳥取大学 未来基金 - The Tottori University Future Fund -

For The Future

みらいの日本、鳥取を担う学生のため
地域とともにみらいを切り拓く大学のため
ご支援をお願いいたします。



鳥取大学は、平成21年に創立60周年を迎えることを機に「鳥取大学みらい基金」を創設致しました。国の財政状況が厳しさを増し、大学運営の基盤的な予算である運営費交付金が年々削減されていく中で、効率的な大学運営を進めることと併せて、教育研究等を安定的に支援するために創設したものです。みなさまにはご理解、ご賛同いただきまして、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鳥取大学長 豊島 良太

みらい基金ホームページはこちら → <http://www.tottori-ac-mirai.adm.tottori-u.ac.jp>

行事のお知らせ

※式典会場へのご来場は公共交通機関をご利用ください。

●鳥取大学卒業式(医学部・医学系研究科)

◇日時／3月4日(金) 医学部10:30、医学系研究科9:00
◇場所／医学部記念講堂(米子キャンパス)

●連合農学研究科学位記授与式

◇日時／3月11日(金) 14:30 ◇場所／農学部会議室(鳥取キャンパス)

●鳥取大学卒業式

◇日時／3月18日(金) 11:00 ◇場所／とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)

●鳥取大学入学式

◇日時／4月8日(金) 11:00 ◇場所／とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)



編集後記

年が明けて10日過ぎから、ようやく鳥取でも山が白くなり始めました。エルニニョ年だけあってか小春日和の実に穏やかな正月でした。

本号では、学長特別対談と学生海外派遣プログラムの2つの特集記事を組みました。学長対談で鳥取銀行代表取締役頭取の宮崎様のご指摘された「自ら考え、自ら動く人材」の育成は、まさに鳥取大学のめざす「知と実践の融合」です。大学では、知識を得ることだけでなく、既成概念を疑い、知識を総動員して自ら考え直す態度を身につけることが求められます。こうした態度が学問を発展させてきました。学生諸君はその最前線に触れています。

さらに体験を通して学ぶ一例として、グローバルゲートウェイプログラムを取り上げました。感性が鋭い学生時代に、一歩踏み出す経験は、人間力を鍛える鳥取大学ならではのものです。実際これらのプログラムに参加した学生の声からは、視野が格段に広がった様子や、将来の目標が具体化する様子が読み取れます。学生時代にチャレンジしてみること。あとはひとりでに回りはじめるようです。

「風紋」をお読みくださり、誠にありがとうございました。どの記事に興味を持たれましたでしょうか。「ご意見・ご要望」をお寄せいただければ幸いです。皆様からの声は、より良い紙面づくりの活力となります。今後とも、「風紋」を通して鳥取大学が皆様の身近な存在であり続けることを願っております。(YK)

信頼と笑顔

地域に感謝

move your heart

鳥取銀行は、お客さまの明るい未来と活力あふれる地域を創造する銀行を目指します。

「とりぎん青い鳥基金」



鳥取砂丘の清掃活動



鳥取大学「鳥取銀行講座」



ネーミングライツによる地域支援



とりぎんバードスタジアム



とりぎん文化会館

TOTTORI BANK 青い鳥の銀行です。鳥取銀行

風紋読者アンケートにご協力ください WEB上で回答できます

「風紋」の記事内容について、日々集まる皆様からの貴重なご意見を活用し、地域に身近で知的な情報誌となるよう努力してまいります。

風紋はバックナンバー全てを、鳥取大学ホームページでご覧いただけます。鳥取大学広報誌 検索 www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学に関するお問い合わせ先

入学試験 TEL0857-31-5061 研究・産官学連携 TEL0857-31-5608 公開講座・社会貢献 TEL0857-31-6777
学生・学生生活 TEL0857-31-5053 授業料納入 TEL0857-31-5029 学生就職関係 TEL0857-31-5456
その他はホームページ www.tottori-u.ac.jp/ask をご覧ください。

2016年2月発行 編集発行／広報委員会広報誌編集専門委員会



小玉芳敬(委員長・地域学部) 塩崎一郎(工学研究科) 〒680-8550 鳥取市山手町南4-101
山下博樹(地域学部) 遠藤常嘉(農学部) TEL:0857-31-5006 FAX:0857-31-5018
西村正広(医学部) 滝波稚子(大学教育支援機構) [E-mail] toridai-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp
山岸大輔(産学・地域連携推進機構) 西尾龍雄(総務課) [ホームページ] http://www.tottori-u.ac.jp

本誌掲載の写真、図版、記事などの無断複写・転載を禁じます。

表紙題字：住川英明(地域学部)